

Supporting Companies

ご協賛いただきました皆様



一般財団法人 民族衣裳文化普及協会



竹中工務店

TOYOTA

大同特殊鋼株式会社

株式会社大丸松坂屋百貨店

日本ガイシ株式会社

鹿島建設株式会社

名古屋空港ビルディング株式会社

公益社団法人日本観光振興協会中部支部

八百彦本店

三精テクノロジーズ株式会社

丸茂電機株式会社

株式会社エーアンドブイ

名古屋観光ブランド協会の皆様

株式会社青柳総本店 株式会社安藤七宝店 味の司 石昆 株式会社大須ういろ
 きよめ餅総本店 呉竹商事株式会社 株式会社雀おどり總本店 株式会社ダイナゴン
 株式会社なごやしめん亭 名古屋だるま・千両 納屋橋饅頭万松庵 御菓子司 美濃忠
 宮きしめんの宮商事株式会社 株式会社妙香園 メゾン・ド・ジャンノエル
 名古屋ういろの元祖 餅文總本店 名古屋名物 みそかつ 矢場とん 大和屋守口漬総本店
 株式会社両口屋是清 おつけもの若菜 (五十音順)

やととかめ文化祭実行委員会

〒460-0011 名古屋市中区大須3-42-30 ALA大須ビル201
 NPO法人大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワーク内
 Tel 052-262-2580 Fax 052-262-6658

<http://www.yattokame.jp/> やととかめ文化祭

主催 | やととかめ文化祭実行委員会

【構成団体:名古屋市(文化振興室、観光推進室、歴史まちづくり推進室、文化財保護室)、(公財)名古屋市文化振興事業団、(公財)名古屋観光コンベンションビューロー、中日新聞社、名古屋観光ブランド協会 特定非営利活動法人大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワーク】

後援 | 名古屋商工会議所、中部経済連合会、中部経済同友会 助成 | 文化庁、一般財団法人地域創造

協力 | 名古屋三曲連盟、名古屋邦楽協会、名古屋日本舞踊協会、(公社)能楽協会 名古屋支部、株式会社メニコ、名古屋鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、名古屋市交通局、名古屋博物館、名古屋都市センター、鶴舞図書館、ソフトバンク株式会社、会場を貸して下さった寺社の皆さま
 企画 | ディレクター:近藤マリコ、高橋佳介、西川千雅 / サブディレクター:加藤幹泰 / コーディネーター:阿部慎一郎、小坂井友美、古川博、亀田久治
 デザイン | 森葉月、榎本紀久 ウェブデザイン | 石垣嘉洋

撮影協力:あいざわけいこ、各務太士、小池菜月、児島章次、近藤喬、千葉亜津子、やととかめ大使撮影担当の皆さま



YATTOKAME FESTIVAL

Travel in Time!
 Experience Culture!
 Nagoya City Festival!

2018/10/27^{SAT} - 11/18^{SUN}

見えない景色が、見えてきます。



狂言師:井上松次郎

2018 やととかめ文化祭
 時をめぐり、文化を旅する、まちの祭典。



REPORT 開催報告

平成30年度 文化庁
 文化芸術副担当拠点形成事業

都市の新しい地図を手に。

23日間にわたって開催された「やっとかめ文化祭」。

6年目を迎えた「旅」の記録には
都市を行き交う旅人たちにより、多くの発見が綴られました。

視座を変えるだけで見えてきた
想像もしなかった風景、知られざる都市の表情。

街角のささやかな物語や記憶のカケラを探し、
訪ね歩いた足跡が
過去と現在、未来をつなぐ道になろうとしています。

都市の新しい地図に、次の道を描くのは
あなたかもしれません。



オープニングイベント
日時 | 10/27(土) 13:00 ~
場所 | 愛知学院大学名城公園キャンパス
◎しゃちほこチャレンジ
◎講談
◎ストリート歌舞伎『大当名古屋心中』
◎辻狂言
会場協力: 愛知学院大学

開催概要

開催期間 平成30年10月27日(土)～11月18日(日) 23日間
 総参加者数 65,109人
 総出演者数 744人

CONTENTS

やっとかめ文化祭2018を終えて 1

事業内容 オープニングイベント 2

芸どころまちなか披露〈9プログラム21回〉

- ◎辻狂言 おおあたりなごやしんぢゅう 6
- ◎ストリート歌舞伎「大当名古屋心中」 10
- ◎当世コトノハ寄席 12
- ◎名古屋ライブハウスの黎明 ～それは70年代からはじまった～ 13
- ◎お座敷ライブ 14
- ◎端唄・小唄、なごやうた、
正調名古屋甚句・熱田神戸節・都々逸、講談 16
- ◎やっとかめ大団円 ～終いの演と宴～ 18
- ◎しゃちほこチャレンジプロジェクト 20

芸どころ名古屋舞台〈4事業5公演〉 21

- ◎名古屋つくし大須舞台 ～尾張名古屋は城で持つ～ 22
- ◎宗春の時代 ～名古屋城下は華の賑わい～ 23
- ◎ろうそく能 狂言「文相撲」能「船弁慶」 24
- ◎世界最古のオーケストラ 雅楽 ～歴代藩主も親しんだ雅の音色～ 25

まちなか寺子屋〈全20講座〉 26

- ◎蔵茶 KURA-CHA ◎志野流香道 源氏三恋香 ほか

まち歩きなごや〈全40コース〉 31

- ◎名古屋城天守閣 ◎千種・今池 ほか

特別企画 35

- ◎ナゴヤ面影座

やっとかめぐり 38

- ◎旅する判子コレクション 38
- ◎名古屋かわいい和菓子めぐり 40

やっとかめ大使 42

ごあいさつ 44

メディア掲載 46

制作物 49

年間活動 51



芸どころまちなか披露

辻狂言

～まちのみんなで、大笑い～

名古屋は狂言のまち。和泉流狂言の発祥地です。

日本で一番古い喜劇には、

今も昔も変わらない人間の姿が描かれ、

ほっこり幸せな笑いをお届けしました。

Performance In The City

芸どころまちなか披露

都市の物語を、伝統が語る。

いつものまちかどにあふれる、笑い、響き。

伝統芸能が紡ぐ物語が、これほどまでに鮮やかとは。

現代のストリートから、都市の文化を見つめる名古屋発のプロジェクト。





芸どころまちなか披露

おおあたりなごやしんぢゅう

ストリート歌舞伎『大当名古屋心中』

江戸時代、名古屋で起きた心中未遂事件は、その後豊後節として語られ、尾張でも江戸でも大ヒットし、現在歌舞伎などでも演奏される常磐津の基となっています。そのエピソードがストリート歌舞伎となって新たに登場。



芸どころまちなか披露

当世コトノハ寄席

上方、江戸のように、関西・関東に確立されている落語文化に負けじと、名古屋は大須演芸場など東西の芸人が顔を揃える場所として、独自の存在感を發揮しています。

今回はそんな名古屋で活躍する落語家・雷門獅筆さんの協力のもと、東海エリアでラジオDJを努め、日々“コトバ”を使うメンバーに、初めての落語をチャレンジしてもらいました。



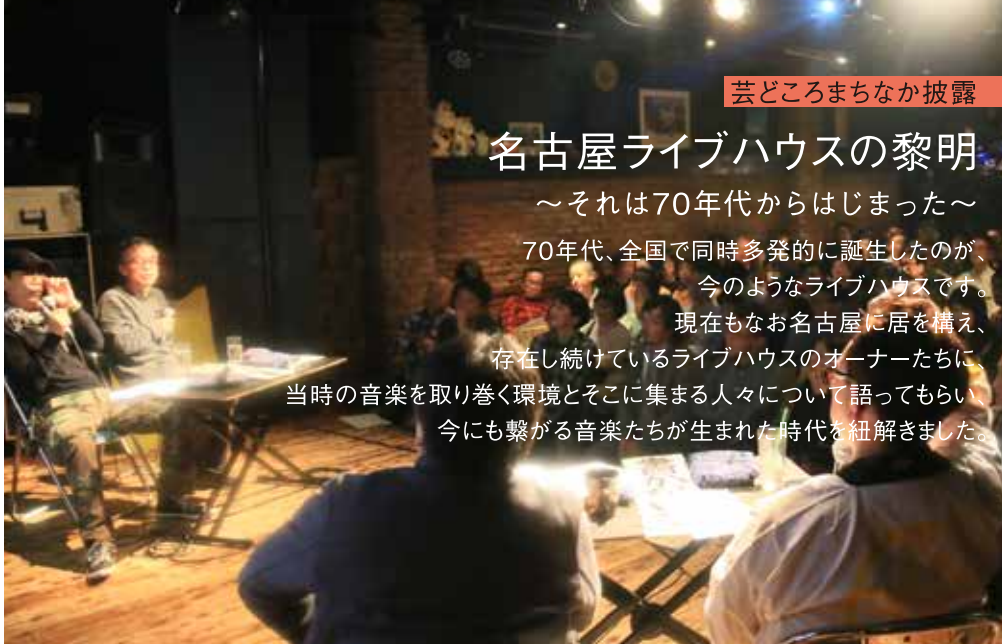
芸どころまちなか披露

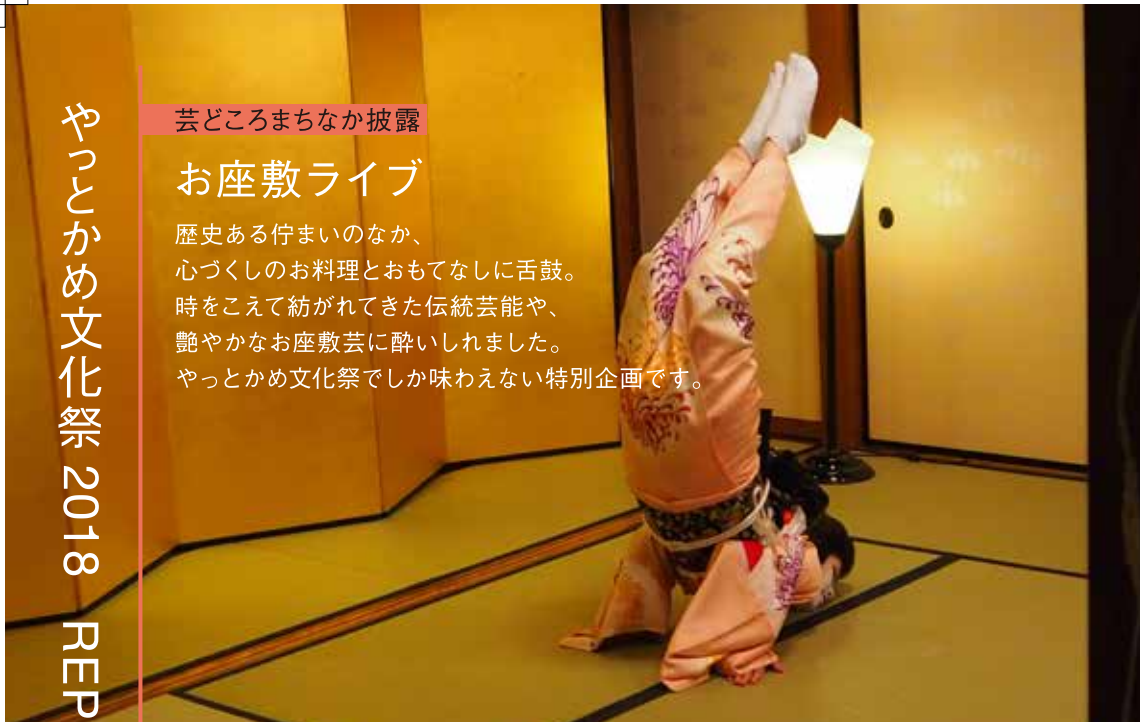
名古屋ライブハウスの黎明

～それは70年代からはじまった～

70年代、全国で同時多発的に誕生したのが、今のようなライブハウスです。

現在もなお名古屋に居を構え、存在し続けているライブハウスのオーナーたちに、当時の音楽を取り巻く環境とそこに集まる人々について語ってもらい、今にも繋がる音楽たちが生まれた時代を紐解きました。





芸どころまちなか披露

お座敷ライブ

歴史ある佇まいのなか、
心づくしのお料理とおもてなしに舌鼓。
時をこえて紡がれてきた伝統芸能や、
艶やかなお座敷芸に酔いしれました。
やっとかめ文化祭でしか味わえない特別企画です。

やっとかめ文化祭 2018 REPORT



志ら玉

やっとかめ文化祭 2018 REPORT



香楽



か茂免

芸どころまちなか披露
お座敷ライブ



芸どころまちなか披露

端唄・小唄、なごやうた、
正調名古屋甚句・熱田神戸節・都々逸、
講談

やっとかめ文化祭 2018 REPORT



芸どころまちなか披露
端唄・小唄、なごやうた、
正調名古屋甚句、
熱田神戸節・都々逸、講談



なごやうた



正調名古屋甚句・熱田神戸節・都々逸



端唄・小唄



講談



やっとかめ文化祭 2018 REPORT

芸どころまちなか披露

端唄・小唄、なごやうた、
正調名古屋甚句、
熱田神戸節・都々逸、講談



芸どころまちなか披露

やっとかめ大団円 ~ 終いの演と宴 ~

by stand Coup!

やっとかめ文化祭最終日は、中日ビルの屋上でクローズングパーティとして「やっとかめ大団円~終いの演と宴~」を開催しました。狂言など芸どころまちなか披露の舞台ほか、尾張のおいしい日本酒やおつまみなどが楽しめるスタンドバー「やっとかめBAR」が登場。やきものワークショップも開催しました。中日ビルの屋上へ上られる閉館前最後の機会を惜しみに、たくさんの方が訪れた他、出演者や運営スタッフが集い交流する社交場となりました。





芸どころまちなか披露

しゃちほこチャレンジプロジェクト

第3弾となるしゃちほこチャレンジプロジェクト。
約40名の参加者が「名古屋甚句の踊り」「金のしゃちほこの踊り」のお稽古を通じて、日本らしい所作やふるまいを学びました。

やっとかめ文化祭 2018 REPORT



芸どころまちなか披露

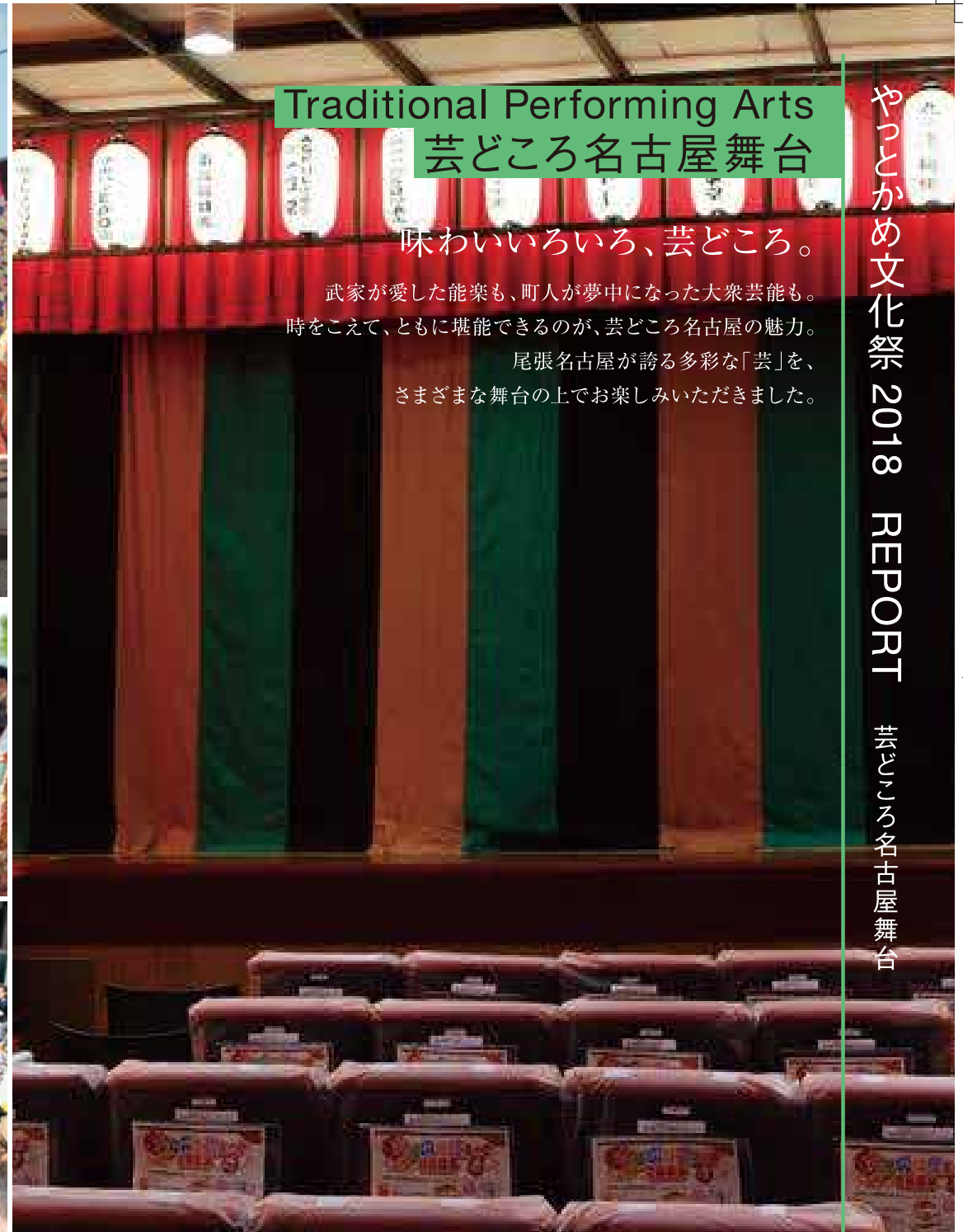


日本舞踊西川流四世家元 西川千雅



しゃちほこチャレンジ

お稽古風景



Traditional Performing Arts
芸どころ名古屋舞台

味わいいろいろ、芸どころ。

武家が愛した能楽も、町人が夢中になった大衆芸能も。
時をこえて、ともに堪能できるのが、芸どころ名古屋の魅力。

尾張名古屋が誇る多彩な「芸」を、
さまざまな舞台の上でお楽しみいただきました。

やっとかめ文化祭 2018 REPORT 芸どころ名古屋舞台



やっとかめ文化祭 2018 REPORT

芸どころ名古屋舞台

やっとかめ文化祭 2018 REPORT

芸どころ名古屋舞台



芸どころ名古屋舞台

ろうそく能 狂言「文相撲」能「船弁慶」
 ～四百年の時を超えて 藩祖義直上覧の能を楽しむ～

やっとかめ文化祭 2018 REPORT

芸どころ名古屋舞台



ろうそく能
 狂言「文相撲」能「船弁慶」
 ～四百年の時を超えて
 藩祖義直上覧の能を楽しむ～
 撮影：千房円



24



芸どころ名古屋舞台

世界最古のオーケストラ 雅楽
 ～歴代藩主も親しんだ雅の音色～

やっとかめ文化祭 2018 REPORT

芸どころ名古屋舞台



世界最古のオーケストラ 雅楽
 ～歴代藩主も親しんだ雅の音色～
 撮影：馬淵望

25



Study In The City
まちなか寺子屋

あいだを楽しむ、ナゴヤ学。

まちを教科書に、ゆかりの場所を学校に、
見て・聞いて・体験する「ナゴヤ学」を開講。
過去と未来、経済と文化、まちと世界。
そのあいで発達した独自の文化を楽しみました。

やっとかめ文化祭 2018 REPORT
まちなか寺子屋

栄のまちづくりと、さよなら中日ビル



ナゴヤ歴史探検 ～ロマンス神話と名古屋の古墳～



金鯱のみる夢



名古屋の和菓子文化
～鬼まんじゅうづくり体験～



ウィーン万国博覧会と名古屋城一海を渡った金シャチ

やっとかめ文化祭 2018 REPORT
まちなか寺子屋

やっとかめ文化祭 2018_ 報告書 (297×210mm)



やっとかめ文化祭 2018 REPORT まちなか寺子屋

大須のルーツは岐阜にあり?
～大須今昔地名物語～



東海 仏像なぞり描き

日本寺大仏 31m
鎌倉大仏 11m
大船観音 25m
奈良大仏 15m
東京大仏 8m
兵庫大仏 11m



和菓子づくり体験



舞妓と紋りナイト～女子力upの宴～



説教と落語 ～落語はお寺から生まれた?



鳥瞰図に見る近代名古屋の都市と観光



～ミクロの視点と先見性～
伊藤圭介と尾張本草学



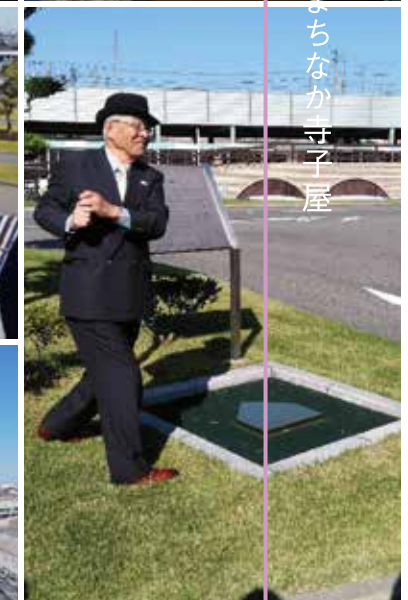
志野流香道 特別講座 聞香体験



まこやの石の考古学



名古屋スポーツスタジアムの歴史



まちなか寺子屋

やっとかめ文化祭 2018 REPORT



やっとかめ文化祭 2018 REPORT



四間道・円頓寺界隈の来し方から行く末を考える



Walking Tour Nagoya
まち歩きなごや

なごや好きとゆく、ぶらりまち歩きツアー。
なごや好きガイドさんと一緒に、ぶらりとまちへ。
知っているようで知らなかった、なごやのお宝が見つかります。
今年は定番や珍スポットも含め、遊び心あふれる40コースを歩きました。

やっとかめ文化祭 2018



まちなか寺子屋

志野流香道 源氏三恋香



蔵茶 KURA-CHA



名古屋の純喫茶まち歩き
～エーデルワイス、ライオンの栄界限～



ノリタケ満喫ツアー

REPORT
まち歩きなごや



麗しき名古屋帯の世界



千種の台地と今池トワイライト



偉人の暮らした名古屋のお屋敷まち



神話の国マンスと武士たちの夢に酔う知多酒のふるさと



大ヒット商品「有松絞り」を生みだした茶屋集落



大正ロマンを感じるまちなみを楽しむ



天候さえも味方につけた信長の知略が義元の野望を打ち砕いた決戦の地



富士山すべり台散歩



「民衆の台所」として町を支え、物流の一大拠点



名古屋城からの脱出ルートを歩く



旧江川端から名古屋城へものづくり職人の街をたどる



名古屋城と大名城、中山道を結んだ街道で、味鏡の考古を散策する



日本とタイの友好の証 お釈迦さまに見守られた参道のまち



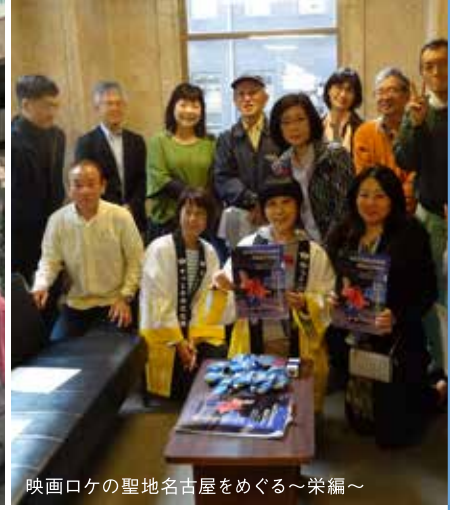
三英傑が勝利とともに凱旋し、朝鮮や琉球の使節が行き交った街道のまち



「建物とは運命共同体?!」～今だからこそ会いに行ける魅惑のモザイク壁画たち～



雑多な文化が混在するまち大須



映画ロケの聖地名古屋をめぐる～栄編～



城下町から産業都市へ～名古屋の変革のために掘られた黒川～



信長を育てたまち津島



歴史探求! 大江川リバーサイド



はじめての古墳散歩～1700年前からある、しだみの古墳～



嫁入り菓子から駄菓子まで昭和レトロなお菓子がいっぱい



熱田神宮の神事用土器のふるさと御器所の地を巡る



名古屋スリパチ凸凹散歩 東山丘陵を歩く



名古屋城外堀からお堀電車を歩く

Special Menu
特別企画

ナゴヤ面影座 × 名古屋城

「ナゴヤ面影座」は、内外から知を集結させ、継続的に「ナゴヤ学」を構想する、現代の「座」。失われた名古屋の面影を再生し、共震し、方法を将来へとつないでいくための場所です。



エバレット・ケネディ・ブラウン

エバレット・ブラウン面影湿版画展



名古屋城内 猿面望嶽茶席



古地図片手に尼ヶ坂を上り下り



名古屋城と戦争遺跡



紫式部伝説がうずまく白川公園



数多くの俳句と門弟を残した松尾芭蕉ゆかりの地



「あゆち水」の史跡から、古代・近代へ。山崎川の流れに沿って



遠く信州へ塩を運んだ道お地蔵さまに見守られて街道の面影をゆく



都心のまん中にある市場巡りと下町の情緒を味わう



てくてく銭湯・昭和区御嶽温泉(銭湯)と歴史深い御器所さんぽ



尾張四観音最古の寺院 甚目寺のまちを行く



東山植物園 歴史散歩 7,000種類の植物と81年の歴史を巡る



名古屋市博物館バックヤード 見学ツアー

～やっかめ文化祭 ナゴヤ面影座第四講～
公も武も民も混ざり合い、
面影を宿す。

立ち上る気のようなものに、その空間は満ちあふれていた。現代ではない。しかし過去でもない。自分が存在している今が、いつなのかわからない。時の流れを越えたところに、ぽっかりと生まれた宇宙にいるような、不思議な感覚を味わっていた。

ここは名古屋城本丸御殿孔雀の間。2018年11月18日、ナゴヤ面影座第四講が、満を持して名古屋城の本丸において開講された。湿板光画家エバレット・ケネディ・ブラウン氏の作品展示と、城内猿面望嶽茶席での茶会という初の試み。ブラウン氏のスペシャルトークも聞けるとあって、会場には多くの数寄者が集まった。

現代の中のいにしえ、 いにしえの中の現代

今回のテーマは「会所」。会所とは、公家や武家、町人らが身分をふせて連歌の歌会などを楽しんだ中世の文化サロンのことだ。ブラウン氏はフォトジャーナリストとしての活動とともに、日本文化の魅力を発信する会所プロジェクトにも取り組んでいる。孔雀の間には、公家と武家と民が交わる会所をイメージし、ブラウン氏が選んだ7つの作品がしつらえられた。

モノクロームの世界に浮かび上がるのは、徳川家康の始祖にあたる松平家25代目当主や公家の名門・近衛家の次期当主、福島県相馬市の相馬野馬追を受け継ぐ男性など…。伝統の装束に身を包んだ人々は、今を

生きているにもかかわらず、遙か昔の時代の人のようでもあり、懐かしい感情もわいてくる。

その理由は、ブラウン氏の次の言葉で合点がいった。「現代の中にいにしえがあり、いにしえの中に現代がある。例えば、地域で継承されてきた祭りには、過去と現在と未来が混ざり合っている。祭りが祖先、祖父母、父母、子どもたちを結ぶ時間になっているんです。そう、湿板光画には時が融合したかのような空気が写し出されているのだ。

日本の面影を撮る

ブラウン氏が手がける湿板光画を面影座で初めて目にした人もいるだろう。湿板とは写真の古い技法で、ペリーが来航した黒船時代のものだ。ガラス板が湿っている状態で撮影、現像までしなければならないので、何よりスピード求められる。また、露出計も使えないので勘と経験が頼りだ。扱いが難しく世界的に見ても廃れてしまった技法だが、ブラウン氏は湿板ならではの表現に価値を見出した。

「初めて日本の神社を訪れたとき、空気が違うと感じたんです。皆さんも古い建物には、歴史的な面影を感じるでしょう。古いものがどんどん消えてゆく中で、日本の面影を撮らなければと思った。その表現手法として行き着いたのが、湿板光画でした。写真というより光画の方が表現としてふさわしいと思い、僕はそう呼んでいます」。

ブラウン氏と湿板光画との出会いも、時を越えたつながりを感じるものだ。実はブラウン氏の先祖は、黒船に乗って幕末の日本に

やってきたカメラマン。ペリーは日本の文化を記録するために、写真家や画家なども連れてきていた。ただ、当時の写真はあくまで記録用に過ぎず、「ご先祖様の写真を見ても被写体の心が伝わってこなかった。それが悔しくて、明治時代に戻って写真を撮りたいという思いで、この技法を始めました」。そして、現代の中のいにしえ、いにしえの中の現代をテーマに、時代を越えて生きる人々、コミュニティを撮影することがブラウン氏のライフワークとなった。日本の名家・旧家、あるいは伝統的な祭りや技術を継承する地域の人々をとらえた作品からは、日本の面影が確かな手ざわりととも浮かび上がってくる。

日本文化の多様性

座の後半、今回は会所がテーマということもあり、シークレットゲストも登場した。近衛忠大氏。あの近衛家の次期当主で、ブラウン氏の作品のモデルにもなった。平安の頃より公家の文化を守り継承してきた立場から、その消滅に強い危機感を抱き、自身も日本文化を紹介する活動を内外で行っている。

「日本文化の良さは、生活の中にいにしえが息づいている点。ただ余りにもさりげなく存在するため、忘れ去られている部分もある。幹線道路沿いの風景が全く同じという都市も多い。これほど多様性のある国なのに」と近衛氏。ブラウン氏も「日本の強みは多様性を受け入れる力」と語り、「日本がこれから観光立国を目指すならば、まずは自分の地元を見直すことが大事」と提言を行った。一方で両氏は、「幸いなことに軸となるものは残っている」「日本では先祖返りの現象が

起きつつあり、若い人が和に関心を持ち始めている」など、日本の未来には希望も抱いている。確かに、今この座に集まる人々も含め、日本の文化を見直そうという人は着実に増えている。

いつもの見え方が変わる

場を移し、面影座のもう一つの会場、古田織部によって建築された猿面望嶽茶席へ。武者小路千家・中野健二郎氏を亭主に、こちら会所というお題に沿い、驚くほど貴重な道具を取り揃えて面影茶会が催された。天皇の御手による軸と古田織部作の茶杓。軸には春の歌がしたためられ、外には錦秋に染まる景色が広がる。公武や春秋が会う趣向を凝らしたもてなしは、まさに日本の伝統、名古屋文化の粋を集めたもの。多くの人が一服の茶とともに、文化の真髄に酔いしれたことだろう。

第四講で感じたのは、この名古屋で脈々と受け継がれてきた伝統文化の力。あらためて「どこの国の人も自分の生まれ育った町が一番だ」ところが日本人はなかなかそういう人が少ない」という対談中の近衛氏の発言を思い返した。自分のまちの魅力を語るができないのは、まさしく名古屋に住んでいる我々ではないか。名古屋城という歴史遺産さえ、通り一遍の見方しかしてこなかった。今こそ耳を澄ませ、心を傾けて、いつもの風景を見てみなければ。そこには見えているようで見えていなかった面影が隠れている。気がつけば、いつもの風景の見え方が変わるはずだ。

文：神野裕美

YATTOKAMEGURI やっとかめぐり



やっとかめぐり

旅する判子コレクション

プログラムにご参加いただくたびに、文化祭にまつわる判子をポン。面影、芸事、街の粋。判子でたくさん集めました。たくさん集めた方には、文化祭オリジナルの記念品をご用意しました。

企画協力・判子作成：天神堂・小島印房



やっとかめぐり

名古屋かわいい
和菓子めぐり

名古屋が誇る
かわいい和菓子をめぐる旅。
文筆家の甲斐みのりさんが
「かわいい和菓子」をテーマに、
和菓子の姿、ネーミング、色使い、
お店の内装や包装紙、
職人さんたちの表情など、
いろんな“かわいい”を探しました。

2018年10月27日(土)～11月18日(日)
かわいい和菓子歩き人: 甲斐みのりさん



やっとかめぐり 名古屋かわいい和菓子めぐり



参加店舗
全23店

覚王山 不老園



御菓子司 菊屋



あられの匠 白木



納屋橋饅頭万松庵
大須万松寺通店



むらさきや



青柳総本家
KITTE名古屋店



亀屋芳広 本店



御菓子司 菊屋茂富



雀おどり總本店



御菓子司 不老園正光



御菓子司 もち観



いちご
一朶



有限会社 川口屋



尾張菓子 きた川



大黒屋本店



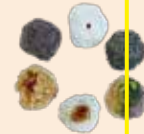
万年堂



餅文總本店 本店



OHAGI3
守山本店



御菓子司
桔梗園



きよめ餅
総本家



御菓子所
つくは祿屋



御菓子司
美濃忠



両口屋是
栄店



YATTOKAMETAISHI

やっとかめ大使



やっとかめ文化祭に欠かせない存在となってきた「やっとかめ大使」。
 今回も総勢82名の大使の皆さんが、文化祭を大いに活気づけ、大活躍してくれました。
 「名古屋のまちが好き」 「もっとオモシロくしたい」そんな名古屋愛に溢れた大使が、
 「やっとかめ文化祭」を誰よりも楽しみ、盛り上げ、まちへの愛を深めました。



やっとかめ大使が通訳を担当



Message From The Director ごあいさつ

名古屋好きの自作自演、
みんなが主役のものがたり。

まちの魅力を再発見する「まち歩き」は、やっとかめ文化祭の根幹という意味で、文字通り大地に根ざしたイベントとして広い認知を得ました。歴史・芸能・文化の3つの軸で展開する「寺子屋」は、今年も新たな企画を実現することができ、名古屋自慢が確実に広がりました。「お座敷ライブ」では参加される方の1/3くらいはリピーター、当初は不安要素を持たれていた料亭側から深い理解をいただけました。そして名古屋の和菓子は全国的に高レベルにあることを知らしめることができ、「和菓子めぐり」は定着した感がありました。

参加者、出演者、会場やお店、そしてスタッフが、どの場面においても「自分が主役」という肌感覚で取り組んでくださったことが、今年度の成果ではないかと思えます。これは、単年開催では得られないことのできない感性であり、6年間の積み重ねによって育まれた、まさに“文化”といえるのではないかと思えます。終わることのない自作自演のものがたりが拓かれたのです。



まちなか寺子屋・まち歩きなごや 担当ディレクター
近藤マリコ

やっとかめ文化祭をもっと日常へ。

やっとかめ文化祭が始まって6年。やっとかめ大使の仕組みができて5年。普段からまちなかで文化祭に関わる方々と、出くわすことも増えてきました。

各プログラムには、大きく派手なテーマから小さな出来事、特別な場所もいつもの路地も、名古屋の文化・歴史、そして「今」の名古屋が沢山散りばめられています。そんな文化祭で様々な方々と出会うので、すごい方なのか一般の方なのか、有名無名にわからず、みんな顔なじみになっています。「今度のやっとかめ文化祭で、こんなことがしたい」とか、「大使もするけど企画もしたい」「お客さんで参加したけど大使に申し込みたい」などなど、文化祭を通じて出会ったことが、日常の会話や仕事に絡み、結果、年中やっとかめ文化祭と向き合ったりしています。

名古屋の歴史・文化を日常の中で楽しむことは、いつもの名古屋に愛着や誇りを持って、楽しく暮らすこと。無理やり意識してすることではなく、コツコツ続けることで、誰もが「芸どころ・旅どころ、なごや」を実感できる日が来ると嬉しく思います。



広報・ボランティア運営 担当ディレクター
高橋佳介

市民が発見するわがまちのタカラ。

「やっとかめ文化祭」は、伝統芸能など様々な名古屋のタカラを間近で見られる面白さが魅力です。最初は「何事か?」と驚かれた辻狂言やストリート歌舞伎も、今ではすっかり定着して次第にファンを伸ばしています。

いつもの三味線、琴、お座敷ライブ、講談、そして恒例となったしゃほこチャレンジに加え、今年はいライブハウスなどの昭和の文化、落語にラジオパーソナリティーが挑戦するなど新たな新機軸も打ち出しました。名古屋の素晴らしいのは実演者が多いこと。ジャンルも幅が広く、この地域の文化性の高さをいつも実感します。しかし市民はその文化性の高さを実感していないのではないのでしょうか。身の回りを見渡すと、職場でも踊りや歌、あるいは書や俳句など、なにか芸事をやっている人がいるはず。これがこの地域のタカラだと思います。

開催が進み伝統になる内容もあれば、その中にも新たな挑戦が生まれるよう企画しております。名古屋市民が、まちの文化に好奇心を持ち自分たちの魅力を発見していただければ、と望んでおります。



芸どころまちなか披露 担当ディレクター
西川千雅

文化祭の開催にあたり、ご支援ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。
本当にありがとうございました。

やっとかめ文化祭実行委員会一同

Media
メディア掲載



中日新聞 2018年10月3日



中日新聞 特集記事 2018年10月19日



中日新聞 2018年10月28日



朝日新聞 2018年11月1日



中日新聞 全5段 2018年10月15日



中日新聞 連載
2018年11月2日



中日新聞 連載
2018年11月3日



中日新聞 全5段 2018年10月25日



中日新聞 2018年11月16日



中日新聞 2018年11月19日

Printed matter & Goods 制作物



名駅経済新聞
「しちほこチャレンジ」参加募集
2018年9月13日



アイデンティティ名古屋
まち歩きしながら名古屋の魅力を見つけてようっとかめ文化祭2018
2018年10月20日



中京テレビキャッチ!
富士山すべり台
2018年11月6日



CBCイッポウ
富士山すべり台
2018年11月8日



LIVERARY
「やっとかめ文化祭」
クロージングパーティー
2018年11月18日

媒体	件数	内容
新聞	中日新聞	9件 特集記事(1)、連載(2)、広告(2)、記事(4)
	その他	5件 朝日新聞 記事(4)、英字新聞社ジャパンタイムズ(1)
テレビ	3件	メーテレ「おもてなし隊名古屋」ほか
ラジオ	2件	東海ラジオ、ラジオサンキュー
雑誌・情報誌	6件	東海ウォーカー、ホットペッパー、月間ケリー、レトロスタイルデザインほか
WEB	99件	LIVERARY、IDENTITY名古屋、HIROBA、名駅経済新聞、日刊KELLYほか
その他	1件	秋の観光キャンペーン
計	125件	

(11月30日現在)

フェイスブック いいね! 5,950人

ツイッター フォロワー 2,465人

インスタグラム フォロワー 115人



ポスター



チラシ



公式プログラム

YATTOKAME LIFE 年間活動



<http://yattokame.jp/yattokamelife/>

やっとかめ文化祭実行委員会では、「時をめぐり、文化を旅する、まちの祭典『やっとかめ文化祭』」のほか、「旅のつれづれに、小さな物語を書きとめた『もーやあこマガジン』」の発行、「名古屋の“文化”をパッケージした『名古屋おみやげ』」の制作など、年間を通して活動しています。

もーやあこマガジン

これは、いくつもの「旅」の記憶。移りゆく都市の中で、見つけた風景の消息。世界からこぼれる小さな物語を、のんびりと結んでゆきます。



名古屋おみやげ

「名古屋の『文化』をお土産に。」をコンセプトに、自分たちが好きな「いつもの名古屋」を、名古屋の文化を楽しんでもらえるお土産を企画・制作しています。

【取扱店舗】 ON READING・Carlova360 名古屋店・グリンストア 名古屋店
グローバルカフェ・喫茶、食堂、民宿。なごのや・リブレット サカエ・リブレット ナゴヤ

名古屋
おみやげ



名古屋コーヒー



純喫茶マグカップ 転写シール・キット



クリアファイル



旅する判子コレクション台紙



名古屋かわいい和菓子めぐり



ボールペン



制作物		配布数	仕様
公式プログラム		90,000部	A4判カラー 28頁
ポスター		1,530枚	B1判～B3判
チラシ	芸どころ名古屋舞台(4種)	各20,000枚	A4判両面カラー
	名古屋かわいい和菓子めぐり	15,000枚	A3判両面8折カラー
	旅する判子コレクション台紙	10,000枚	A3判両面8つマップ折カラー
その他制作物	クリアファイル	3,000枚	
	ボールペン	500本	



そして、旅はつづく。